

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771300419		
法人名	医療法人社団 光風会		
事業所名	高齢者グループホームプレスマン		
所在地	香川県高松市牟礼町原932番地1		
自己評価作成日	平成22年9月7日	評価結果市町受理日	平成22年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.kagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3771300419&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成22年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、利用者様の望む暮らし、利用者様の自分らしさを尊重した支援を理念に掲げ、職員全員でのチームケアをめざしています。現在、地域との交流には、特に力を注いでおり、毎月、いろんな方面のボランティアの来訪があり、利用者様に大変喜んでいただいています。また、家族との信頼関係を深めるため、担当スタッフより、毎月、利用者様の近況を手紙でお知らせしたり、利用者様の小さな体調の変化もすぐに報告するなど、良い関係作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

利用者一人ひとりが地域とつながりながら暮らし続けられるように、管理者を中心として積極的に地域へ働きかけを行っており、地元の幼稚園や小学校との交流を継続的に行っている。また、地域の方の訪問・ボランティアの受け入れも積極的で、外出支援・話し相手・演奏・生け花・踊り・銭太鼓・中学生の職場体験等、様々な行事・企画を通じて利用者が地域の方とつながりが持てるように工夫している。また、法人内の連携・バックアップ体制も優れており、緊急時・災害時・重度化等利用者が抱えることが想定される困難に対応できるように、日々の連絡・協力体制や施設内研修も充実しており、利用者が安心して生活できる環境を整備している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

高齢者グループホームプレスマン(雪ユニット)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を大切に基本理念をかかげている。毎朝の申し送り時に理念を全員で唱和し、日常的な業務の中で、理念に応じたものであるか確認及び指導している。カンファレンス時には理念を掘り下げて、職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っている。	理念は、職員で話し合い、平成18年度に地域密着型サービスとしての役割を明確にした。その後も理念に基づき、地域との交流を軸に取り組みを続けている。職員も理念を意識して実践につなげようと日々努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的に散歩や薬局・コンビニ等に出掛け、近隣の人達と挨拶を交わしたり話をしたりしている。地域で行われているひな祭り・腹相撲・花祭り等の行事に参加させてもらっている。また、昨年は新型インフルエンザの関係でできなかった秋祭りを今年度は婦人会・老人会の他に青年会にも協力して頂き、地域の方にも大勢来て頂けるよう呼びかける予定にしている。	積極的に地域へ働きかけを行っており、地元の幼稚園や小学校との交流を継続的に行っている。また、地域の方の訪問・ボランティアの受け入れも積極的で、外出支援・話し相手・中学生の職場体験等、様々な行事・企画を通じて利用者が地域の方とつながりが持てるように工夫している。	事業所は、災害対策での応援体制作りや日々の何気ない交流で、もっと結びつきを強めたいと感じ、努力を続けている。その努力により、地域との結びつきが深まることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での認知症の人の支援方法についてアドバイスできるよう努力している。当事業所がどこにあるか、何をやる所なのか、まだまだ知らない地域の方がおられるので、たよりの配布や秋祭り等でPRしていきたいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状や取り組み・地域資源の活用などについて意見交換し、事業所のサービスの質の向上に活かしている。	地域住民・自治会会長・民生委員等、地元地域の参加者が多く、地域交流行事や個別外出・野菜作り・成年後見制度等さまざまな内容が話し合われ、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業を行っていく上で生じる運営等の課題について、市町村担当者とは協議しながら行っている。運営推進会議にも出席いただき、協働関係を継続できるよう心掛けている。	市介護保険課に対して、運営やサービス提供上の質問を電話や訪問により相談している。また、運営推進会議に参加している地域包括支援センター職員と対応事例や地域交流等の意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者および全ての職員は、日中鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関は鍵をかけないケアを実践している。不穏症状がある入居者には寄り添い安心できるよう対応している。現在身体拘束をしている方はいない。	車いすベルトの使用解除に取り組み、現在、身体拘束をしている方はいない状態になっている。この経験を活かし、現在も身体拘束をしないケアに積極的に取り組んでいる。	

高齢者グループホームプレスマン(雪ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ全体のカンファレンスを開き勉強し、虐待が見過ごされることがないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員への説明を行っている。必要な人には、説明・アドバイスをしながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。当ホームでできること・できないこと・起こりうるリスクについては、特に重視して説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに意見箱を置くと共に家族会・運営推進会議等で意見・要望を出してもらえる雰囲気作り心掛けています。そこでの意見等を全体カンファレンスで話し合い反映させるようにしている。	意見箱の設置だけでなく、要望・苦情を出してもらえるように、家族の訪問があった際や家族に電話連絡をした際に近況報告だけでなく、意見や要望を尋ねるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行っている全体カンファレンスで意見・要望を聞き、日頃から問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	月1回の全体カンファレンスの中で、職員からの意見を聞き、話し合っている。また、日々の実践の中で、意見が出るような雰囲気づくりを心がけている。出た意見については、カンファレンスでの話し合いや法人との調整で反映できるようにしている。	以前実施されていた定期的な職員面接の機会を再度設けて、より職員の意見が反映できる工夫に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るかぎり現場に出向き、職員の努力や実績、夜勤状況を把握するよう努めている。給与水準については、定期的にハローワークにて賃金水準の確認を行っている。職員の入浴介助の負担を軽減する為に入浴介助機械を導入した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回開催される法人内の研修には、1ユニット1名ずつ参加するようにしている。グループホーム協議会開催の研修会には、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。それらの研修報告は毎月の全体カンファレンスで発表してもらい、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		

高齢者グループホームプレスマン(雪ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会からの研修会や相互評価に積極的に参加してもらい、当ホーム以外の人材の意見や経験をケアに活かすようにしている。市内のケアマネジャーが参加する介護支援専門員研修会に出席し、情報交換を行い質の向上に励んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、入居に至るまでの生活状態を聞き、把握するよう努め、本人の思いや不安を理解しようとしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの家族の苦労やサービスの利用状況等、これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。話を聞くことで落ち着いてもらい、次の段階の相談につなげていけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人と家族が「その時」必要としている支援を可能な限り柔軟な対応で行い、場合によっては、他の事業所のサービスにつなげるよう対応もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつや食事を一緒に手作りしたり、洗濯などの家事を通して、暮らしを共にする者同士の支え合う関係を築いている。また、カラオケやパズル・編み物など、生活の中で楽しみを見つけ感動を分かち合いながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	精神面・身体面などの変化があれば、その都度電話にて報告している。また、面会時には、近況報告をすると共に家族の話にも耳を傾け、同じ思いで支えていける関係を築けるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしてきた友人・知人の関係が途切れぬよう訪問時には、快く過ごしていただける場面作りをしている。また、利用者一人ひとりを取り巻く人間関係・馴染みの場所を把握し、その地域での買い物やドライブ等を取り入れることで、継続的な関係作りを支援している。	入居時の情報収集に努め、それまでの付き合いがあった方々との交流が途絶えないよう、積極的に訪問を受け入れたり、行き付けだった理・美容室への外出や墓参り、自宅への外出を積極的に支援している。	

高齢者グループホームプレスマン(雪ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶・外食・レクリエーション等、利用者が一緒に過ごせる時間を多く持てるよう支援している。また、一人ひとりが孤立しないよう配慮するとともに利用者同士が助け合い、支え合って生活していけるよう職員はむやみに口を出さず、調整役となれるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、併設病院に入院となった利用者や家族に対しては、見舞ったり、それぞれの不安に耳を傾け相談にのる等、関係が断ち切れぬよう長期継続的なフォローをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、行動や表情から利用者一人ひとりの思いや希望を推し測るよう努めている。また、意志疎通の困難な利用者には家族や関係者などからも情報を得るなど、本人の思いや意向を把握できるよう取り組んでいる。	出来る限り利用者本人から思いを確認するように努め、思いが表出できない利用者に対しては家族や関係者から情報を得るようしており、本人の言葉や得られた情報から本人が望む暮らしの実現のため、買い物や外出等の支援に結び付けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集を綿密に行うため、プライバシーに配慮しながら、利用者や家族から、これまでの生活歴や暮らし方を聞き取るようにしている。また、入居者も少しずつ情報を得るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、「できない」という情報にとらわれず、生活・心理面等、多方面から総合的に把握し、「できる力」を発見していくことに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がよりその人らしく生活ができるよう半年ごとに利用者・家族・関係者参加のサービス担当者会議を開き、それぞれの意見や要望を聴きながら、介護計画の作成をおこなっている。また、3カ月ごとにモニタリングを行い、要望や状況変化に応じて見直している。	サービス担当者会議には、利用者本人・家族・関係者ができるだけ参加できるように、特に家族に対して呼びかけを行い、意見聴取に努めている。また、現場職員と常時相談し、計画の作成・モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、朝のバイタルサイン・食分量・水分量・排泄状況及び日々の様子や本人の言葉を細かく記録し、全職員の確認を義務付けている。また、個別ファイルを基に介護計画の見直し評価を行っている。		

高齢者グループホームプレスマン(雪ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームに看護職員3名を配置している。また、病院の併設施設でもあり医療連携体制は充実している。利用者の受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続を行っている。ホーム内での看取りについては、本人・家族の意向に基づき取り組んでいる。また、利用者のレベル低下に伴い、外出頻度やレクリエーションの減少等があるため、その人にあった機能訓練を充実させている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員には運営推進会議に出席してもらい意見交換するようにしている。ボランティアに関しては、当ホームの立地条件の悪さから外出が難しい状況であったが、平成20年1月より定期的に来てくれる団体と行事等の時に依頼する団体が見つかり支援の幅が広がった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、いつでも相談や受診ができる体制を築き、適切な医療を受けられるよう支援している。ホームの顧問医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、家族と協力し、通院介助を行ったり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関を受診できるようにしている。また、同法人の協力医療機関以外の受診に対しても状況により職員(看護師)が対応できるように配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を3名配置しており、日勤帯には必ず1名確保するように勤務を組んでいる。介護職は、情報や気づきを看護職に伝え、適切な受診につなげている。夜勤帯では、併設施設の看護師の協力により対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、看護師が付き添い必要な情報を医療機関に提供するようにしている。また、頻りに職員が見舞うようにし、家族とも情報交換しながら、回復状況等をみながら速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームが対応しうる最大のケアについて説明を行い、方針を共有するようにしている。また、状態の変化があるごとに家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。	看取り希望者に対しては、出来る範囲で対応していきたいと考えているが、酸素吸入や点滴・喀痰吸引など看護師の勤務体制や対応可能な範囲を説明しながら、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、全職員に周知・徹底を図っている。また、3カ月毎に急変時の対応について勉強会を行い、実際の場面で活かせる技術を習得するようにしている。		

高齢者グループホームプレスマン(雪ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し年2回昼と夜間想定で、利用者と共に避難訓練を実施している。また、3カ月毎に事業所内で防災について勉強会を行い、災害時に備え適切な判断・処置ができるよう訓練している。地域住民には、具体的協力体制の確認までは至っていない為、併設施設との協力体制をとった。	消防署の協力を得ながら、防災計画に基づき、年2回避難訓練を実施している。また、3カ月ごとに勉強会を行い、職員は緊急時の初動対応を把握できている。また、併設施設からの応援体制が整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月に1回、勉強会を行い、職員の意識向上に努めると共に カンファレンスやロールプレイで対応の仕方を見直すことで利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を徹底している。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重する重要性を認識している。勉強会等で対応の仕方を見直し・確認している。さりげない声かけを心がけ、居室への入室・排泄誘導・入浴介助の場面で実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに合わせた声掛けを行うよう努めると共に意思表示が困難な方にも自己選択ができるよう飲み物のメニュー表を作る等し、利用者が自分で決めることのできる場面作りをしている。また、買い物や外食などを通して、自分の思いや希望を表すことができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れの中で、利用者一人ひとりのペースに合わせ、その時の体調を見ながら声を掛け、その日を思うように過ごしていただけるだけ個別性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回専属の美容師が来ており、利用者の望むカットをしてもらったり、時には外の美容院でパーマをかけるなどの支援をしている。また、'おしゃれの日'を作り、化粧やマニキュアをしたりと利用者らしい思いにおしゃれを楽しめるよう取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりが得意分野を生かし、メニュー書き、盛り付け、下膳、食器洗いなど、利用者を中心としながら一緒に行うことで、食事の楽しみや利用者の自信につながるよう取り組んでいる。また、手作り夕食、希望夕食、喫茶店での外食など'食べること'が利用者にとっての楽しみにつながるよう支援している。	盛り付けや下膳、テーブル拭き等、準備や片付けにおいても利用者の力を活用できるよう支援している。また、手作り夕食や希望夕食・外食支援等の取り組みにより、食事が楽しめるように支援している。	職員も一緒に食事を取るようになっているが、テーブルの配置等もあるため、利用者と職員と一緒に楽しく食事が出来る工夫に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、職員は情報を共有している。摂取量が低下した場合は、入居者の好みのもを取り入れたり、手作りゼリーにするなど摂取しやすく工夫し、栄養摂取や水分確保に努めている。		

高齢者グループホームプレスマン(雪ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、利用者の力に応じて、見守りや介助を行っている。就寝前は、義歯洗浄剤を使用し、清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。また、声掛けや誘導を行い、トイレで排泄を促すことで、失敗やオムツの使用を減らし、自立排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を用いて、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導などで、なるべくオムツを使用せず、トイレでの排泄の自立に向け個別の排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い、繊維質の多い食材や乳製品を取り入れたり、散歩やラジオ体操で身体を動かすなど、自然排泄できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で入浴が左右されないように努めている。また、自分で湯船に浸かることのできない利用者にもリフトを使用し、ゆっくりと入浴を楽しめるよう、利用者一人ひとり希望する入浴に近づけるよう取り組んでいる。	アンケートを取る等工夫をし、利用者の意向を確認している。2～3日に1回で良いという意向もあるが、毎日希望する方に対しては意向に沿うようにしている。重度化しても個浴に入れるようにリフトを設置し、楽めるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の一人ひとりの身体状況に合わせて休息を取り入れ、無理なく過ごせるよう支援している。午前中の日光浴が安眠に効果的とのことで、天気の良い日には午前中の日光を浴びる等、自然に良眠できるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。薬の処方や用量が変更された場合は、その都度申し送りをし、飲み忘れや誤薬がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いすることなく、利用者一人ひとりが役割を持てるよう工夫するとともに心からの感謝の言葉を伝えるようにしている。また、カラオケ大会やボーリング大会など、利用者の趣味を生かし、楽しんで日々を過ごせるよう工夫し、取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮しながら、その日の希望に添って、散歩・ドライブ・買い物などに出掛けている。また、家族やボランティアなど地域の人々の協力を得ながら、幼稚園や小学校の行事に参加したり、季節の花を見に行くなどの外出支援もしている。	その日の希望により、散歩やドライブ、買い物など頻回に出かけている。行事的な外出の際には、地域のボランティアの協力を得て、マンツーマンで対応できるような配慮をして、外出を楽しめるような工夫をしている。	

高齢者グループホームプレスマン(雪ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、お金を所持している方もいる。また、家族からお金を預かり、事務所で管理している方も買い物や外食、毎週の移動式パン屋では自分の好きな物を選び、自分で購入することの楽しさが持てるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望した時は、いつでも電話や手紙でのやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、利用者が生けた季節の花を飾り、壁には、利用者手作りの作品や外出先で撮影した写真を飾っている。排泄物の匂いは、十分に換気するなどして気を付けている。家庭的な雰囲気を感じられるよう、ご飯や味噌汁の香り、窓から差し込む光、有害な音など工夫や配慮をしている。	玄関には季節の花を飾り、壁面も落ち着いた雰囲気を残しつつ作品が飾られている。清掃や換気にも気を配り、清潔感が強く感じられる。色彩的にも調和が取れており、落ち着いた雰囲気づくりに工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは、フローリングと畳とに分けており、利用者が好きな場所でくつろげるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、毎月手作りしているカレンダーや家族写真・ボランティアと作った作品などを利用者が思うように飾っている。また、自宅で使用していたテレビやラジオ、小物などを置いたり利用者自分らしく居心地よく過ごせる工夫をしている。	使い慣れた家具や電気製品、小物を持ち込み、手作りカレンダーや習字等の作品、家族等との写真・アルバムを置くことで、利用者が自分らしい居室で過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印は、車椅子の利用者にもわかるような高さに表示するなど、一人ひとりの状況に合わせた環境づくりを行うなどの工夫をしている。		

高齢者グループホームプレスマン(月ユニット)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を大切に基本理念をかかげている。毎朝の申し送り時に理念を全員で唱和し、日常的な業務の中で、理念に応じたものであるか確認及び指導している。カンファレンス時には理念を掘り下げて、職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や薬局・コンビニ等に出掛け、近隣の人達と挨拶を交わしたり話をしたりしている。地域で行われているひな祭り・腹相撲・花祭り等の行事に参加させてもらっている。また、昨年は新型インフルエンザの関係でできなかった秋祭りを今年度は婦人会・老人会の他に青年会にも協力して頂き、地域の方にも大勢来て頂けるよう呼びかける予定にしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での認知症の人の支援方法についてアドバイスできるよう努力している。当事業所がどこにあるか、何をやる所なのか、まだまだ知らない地域の方がおられるので、たよりの配布や秋祭り等でPRしていきたいと思っている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状や取り組み・地域資源の活用などについて意見交換し、事業所のサービスの質の向上に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業を行っていく上で生じる運営等の課題について、市町村担当者と協議しながら行っている。運営推進会議にも出席いただいて、協働関係を継続できるよう心掛けている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者および全ての職員は、日中鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関は鍵をかけないケアを実践している。不穏症状がある入居者には寄り添い安心できるよう対応している。現在身体拘束をしている方はいない。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ全体のカンファレンスを開き勉強し、虐待が見過ごされることがないように努めている。

高齢者グループホームプレスマン(月ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員への説明を行っている。必要な人には、説明・アドバイスをを行いながら支援している。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。当ホームでできること・できないこと・起こりうるリスクについては、特に重視して説明をしている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに意見箱を置くと共に家族会・運営推進会議等で意見・要望を出してもらえぬ雰囲気作りに心掛けている。そこでの意見等を全体カンファレンスで話し合い反映させるようにしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行っている全体カンファレンスで意見・要望を聞き、日頃から問いかけたり、聞き出したりするようにしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るかぎり現場に出向き、職員の努力や実績、夜勤状況を把握するよう努めている。給与水準については、定期的にハローワークにて賃金水準の確認を行っている。職員の入浴介助の負担を軽減する為に入浴介助機械を導入した。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回開催される法人内の研修には、1ユニット1名ずつ参加するようにしている。グループホーム協議会開催の研修会には、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。それらの研修報告は毎月の全体カンファレンスで発表してもらい、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会からの研修会や相互評価に積極的に参加してもらい、当ホーム以外の人材の意見や経験をケアに活かすようにしている。市内のケアマネジャーが参加する介護支援専門員研修会に出席し、情報交換を行い質の向上に励んでいる。

高齢者グループホームプレスマン(月ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で入居に至るまでの生活状態を聞き、把握するよう努め、本人の思いや不安を理解しようとしている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について聞くようにしている。話を聞き、相談・解決につなげるようにしている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者が、その時必要としている支援を可能な限り対応し、場合によっては、他の事業所のサービスにつなげる対応をしている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつ作り、夕食配りをしたり、野菜作りの収穫を楽しむなかで、感動を分かち合い支え合いながら生活している。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	精神面・身体面などの変化があれば、その都度電話にて報告している。また、面会時には近況報告をすると共に、家族の話にも耳を傾け同じ思いで支えられる関係を築けるよう心掛けている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の訪問にも快く過ごしていただけるよう心掛けています。また、利用者一人ひとりを取り巻く人間関係・馴染みの場所を把握し、本人希望の買い物・外出等を取り入れることで、これまでの関係が途切れないよう支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶・レクリエーション等、利用者が一緒に過ごせる時間をもてるよう支援している。また、利用者同士が掃除・洗濯・食事の片付けなど助け合い、支え合って生活できるよう、職員は見守り・声掛けを行い、調整役となれるよう努めている。

高齢者グループホームプレスマン(月ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	症状の悪化などで、病院へ転院となる事が多い。サービス利用時に培われた関係を大切に、転院となった後も家族の不安に耳を傾け、再サービス利用の相談も受け入れるよう努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と毎日会話、行動や家族からの希望・意向を聞き把握に努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から日常生活状況を聞いたり、利用者との会話・行動を見てスタッフで話し合い把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の毎日の生活状況を見ながら、職員全員で話し合い、出来る事を継続できる様に出来ない事を介助し、支援している。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム内でのドクターカンファレンスやスタッフ全体のカンファレンスを開き、意見やアイデアを聞き、介護計画を作成している。また、家族に介護計画を見ていただき、意見や要望を聞くようにしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や水分量、排泄等職員が一目で確認できる様、水分チェック表・排泄チェック表に記入している。利用者の毎日の状態変化も個人記録に記入し、申し送り情報を共有し、状態をみて食事・水分量に工夫をしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームに看護職員3名を配置している。また、病院の併設施設でもあり医療連携体制は充実している。利用者の受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続を行っている。ホーム内での看取りについては、本人・家族の意向に基づき取り組んでいる。また、利用者のレベル低下に伴い、外出頻度やレクリエーションの減少等があるため、その人にあった機能訓練を充実させている。

高齢者グループホームプレスマン(月ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員には運営推進会議に出席してもらい意見交換するようにしている。ボランティアに関しては、当ホームの立地条件の悪さから外出が難しい状況であったが、平成20年1月より定期的に来てくれる団体と行事等の時に依頼する団体が見つかり支援の幅が広がった。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、いつでも相談や受診ができる体制を築き、適切な医療を受けられるよう支援している。ホームの顧問医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、家族と協力し、通院介助を行ったり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を3名配置しており、日勤帯には必ず1名確保するように勤務を組んでいる。介護職は、情報や気づきを看護職に伝え、適切な受診につなげている。夜勤帯では、併設施設の看護師の協力により対応できるようにしている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、看護師が付き添い必要な情報を医療機関に提供するようにしている。また、頻繁に職員が見舞うようにし、家族とも情報交換しながら、回復状況等をみながら速やかな退院支援に結びつけている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームが対応しうる最大のケアについて説明を行い、方針を共有するようにしている。また、状態の変化があるごとに家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、全職員に周知・徹底を図っている。また、3カ月毎に急変時の対応について勉強会を行い、実際の場面で活かせる技術を習得するようにしている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し年2回昼と夜間想定で、利用者と共に避難訓練を実施している。また、3カ月毎に事業所内で防災について勉強会を行い、災害時に備え適切な判断・処置ができるよう訓練している。地域住民には、具体的協力体制の確認までは至っていない為、併設施設との協力体制をとった。

高齢者グループホームプレスマン(月ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会によって得た利用者一人ひとりに対する言葉かけを実践している。また、利用者の自己尊重やプライバシーを損ねない対応をしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに合わせた声掛けを行うよう努めている。移動式パン屋が来る日は、一人ひとり好みのパンを選んでもらっている。また、買い物や外出などを通して自分の思いや希望を表すことができるよう支援している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れを基本とした一人ひとりのペースに合わせて、その日を有意義に過ごせるよう支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の洗顔・整髪を行い、衣類もバランスを考慮し選んでもらっている。月1回、美容室の方が来られカットしている。また、週1回のメイク等を行う行事を入れている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりが分担して、盛り付け・配膳・下膳・食器洗いなどして、共に楽しみながら行っている。また、利用者の自信につながるよう支援している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者のその日の体調や栄養バランスをみながら支援している。食事や水分の摂取状況を記録し、職員は情報を共有している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行っている。就寝前は義歯洗浄剤を使用して清潔保持している。

高齢者グループホームプレスマン(月ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレにて排泄をすることにより失敗やおむつ使用を減らし、自立排泄できるよう支援している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックをし、便秘がちな利用者に対しては食物繊維の多い食材や乳製品を取り入れたり、散歩やストレッチ体操で身体を動かす等、自然排便できるようにしている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望や体調に合わせて、入浴を楽しめるように取り組んで努力している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体状況に応じた休息を行い、無理なく過ごせるよう支援している。天気の良い日には、日光浴を行い、安心して良眠できるよう支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成しており、職員が内容を把握できるようにしている。薬の変更時には申し送りをし、飲み忘れや誤薬がないように努めている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとり喜びのある日々を過ごせる様支援し、その人にあった役割や楽しみにしているものを取り入れて、気分転換を図り支援している。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や状態に応じて散歩に行ったり、買い物やドライブ、または外食などしている。また、ボランティアの方や家族等、協力を得ながら小学校の行事や公共行事など参加し、出掛けている。

高齢者グループホームプレスマン(月ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で所持している方もいるが、家族から小遣いとしてお金を預かり、事務所で管理している。買い物や外食時には、本人が好きな物を選んで自分で支払いできるように支援している。また、移動式パン屋が来る火曜日は全員が好みのパンを選んでもらっている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方が希望された時に電話や手紙がやり取りできるよう支援している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの一角に野菜を育てたり、利用者によって作っていただいた作品を壁に飾っている。排泄物においては十分に換気するなどして気を付けている。また、家族的な雰囲気を出す為、ご飯・味噌汁は作り、香りを味わってもらっている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方が、自室で過ごせたり、ホールではフローリングと畳の間があり、好きな場所でくつろいでもらっている。また、ホールには常にスタッフがいるようにしている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には毎月手作りしているカレンダーや家族の写真を飾ったりしている。また、好みのテレビ番組があり、他入居者と見たい番組が異なる場合や独りで見たい方は、自室にテレビを置くよう、買い物に行き購入する等の支援をしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、車いすや歩行器等を取り入れ、活動性の維持を図っている。また、できる事・できない事を把握し、できない事をさりげなく支援し、安全に気を配りながら自立した生活が送れるようにしている。

高齢者グループホームプレスマン(花ユニット)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を大切に基本理念をかがけている。毎朝の申し送り時に理念を全員で唱和し、日常的な業務の中で、理念に応じたものであるか確認及び指導している。カンファレンス時には理念を掘り下げて、職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や薬局・コンビニ等に出掛け、近隣の人達と挨拶を交わしたり話をしたりしている。地域で行われているひな祭り・腹相撲・花祭り等の行事に参加させてもらっている。また、昨年は新型インフルエンザの関係でできなかった秋祭りを今年度は婦人会・老人会の他に青年会にも協力して頂き、地域の方にも大勢来て頂けるよう呼びかける予定にしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での認知症の人の支援方法についてアドバイスできるよう努力している。当事業所がどこにあるか、何をやる所なのか、まだまだ知らない地域の方がおられるので、たよりの配布や秋祭り等でPRしていきたいと思っている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状や取り組み・地域資源の活用などについて意見交換し、事業所のサービスの質の向上に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業を行っていく上で生じる運営等の課題について、市町村担当者と協議しながら行っている。運営推進会議にも出席いただいて、協働関係を継続できるよう心掛けている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者および全ての職員は、日中鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関は鍵をかけないケアを実践している。不穏症状がある入居者には寄り添い安心できるよう対応している。現在身体拘束をしている方はいない。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ全体のカンファレンスを開き勉強し、虐待が見過ごされることがないように努めている。

高齢者グループホームプレスマン(花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員への説明を行っている。必要な人には、説明・アドバイスをを行いながら支援している。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。当ホームでできること・できないこと・起こりうるリスクについては、特に重視して説明している。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに意見箱を置くと共に家族会・運営推進会議等で意見・要望を出してもらえぬ雰囲気作りには心掛けている。そこでの意見等を全体カンファレンスで話し合い反映させるようにしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行っている全体カンファレンスで意見・要望を聞き、日頃から問いかけたり、聞き出したりするようにしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るかぎり現場に出向き、職員の努力や実績、夜勤状況を把握するよう努めている。給与水準については、定期的にハローワークにて賃金水準の確認を行っている。職員の入浴介助の負担を軽減する為に入浴介助機械を導入した。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回開催される法人内の研修には、1ユニット1名ずつ参加するようにしている。グループホーム協議会開催の研修会には、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。それらの研修報告は毎月の全体カンファレンスで発表してもらい、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会からの研修会や相互評価に積極的に参加してもらい、当ホーム以外の人材の意見や経験をケアに活かすようにしている。市内のケアマネジャーが参加する介護支援専門員研修会に出席し、情報交換を行い質の向上に励んでいる。

高齢者グループホームプレスマン(花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態の把握をし、本人の希望や思い、不安を理解しようと努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり話しを聞くように努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急なサービスが必要な相談者に対して、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他の事業所のサービスにつなげる対応をしている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員が利用者は人生の先輩であると考え、共に協働しながら、和やかな生活が送れるよう努めている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の暮らしの出来事や様子をきめ細かく報告し、定期的にサービス担当者会議を開き、利用者への支援について共に話し合える関係づくりを心掛けている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の訪問時、気持ち良く過ごしていただけるよう心掛けています。利用者一人ひとりの人間関係を把握し、買い物・外出等を取り入れ、これまでの関係が途切れないよう支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・お茶・体操・レクリエーション等、ホールで集まる時間を多く持つように努めている。定期的に席替えをし、利用者同士がコミュニケーションを図れるよう支援している。

高齢者グループホームプレスマン(花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用時に培われた関係を大切にし、病状悪化等により、転院となった後も家族の不安に耳を傾け、再サービスの相談も受け入れるよう努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、利用者との信頼関係を築き、利用者一人ひとりの思いや希望を言葉や表情などから把握するよう努めている。また、家族からの情報も大切にしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族からの情報収集はプライバシーへの配慮を忘れず行っている。利用時だけでなく、利用中も折に触れ、少しずつ把握するよう努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを排泄チェック表や心理面等、多方面から総合的に把握するよう努めている。毎日の関わりの中で職員全員で利用者のできる力を発見し、話し合いそれを援助している。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。アセスメントチェック表にプラスしてセンター方式を取り入れ、定期的にケアカンファレンスを行い、チームの介護計画作成に取り組んでいる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量・水分量・排泄状況など利用者の状態や言葉を細かく記録し、全職員が確認している。日々の記録をもとに作成したケアプランを実践し、定期的に状態にあったプランの見直しを行っている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームに看護職員3名を配置している。また、病院の併設施設でもあり医療連携体制は充実している。利用者の受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続を行っている。ホーム内での看取りについては、本人・家族の意向に基づき取り組んでいる。また、利用者のレベル低下に伴い、外出頻度やレクリエーションの減少等があるため、その人にあった機能訓練を充実させている。

高齢者グループホームプレスマン(花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員には運営推進会議に出席してもらい意見交換するようにしている。ボランティアに関しては、当ホームの立地条件の悪さから外出が難しい状況であったが、平成20年1月より定期的に来てくれる団体と行事等の時に依頼する団体が見つかり支援の幅が広がった。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、いつでも相談や受診ができる体制を築き、適切な医療を受けられるよう支援している。ホームの顧問医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、家族と協力し、通院介助を行ったり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を3名配置しており、日勤帯には必ず1名確保するように勤務を組んでいる。介護職は、情報や気づきを看護職に伝え、適切な受診につなげている。夜勤帯では、併設施設の看護師の協力により対応できるようにしている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、看護師が付き添い必要な情報を医療機関に提供するようにしている。また、頻繁に職員が見舞うようにし、家族とも情報交換しながら、回復状況等をみながら速やかな退院支援に結びつけている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームが対応しうる最大のケアについて説明を行い、方針を共有するようにしている。また、状態の変化があるごとに家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、全職員に周知・徹底を図っている。また、3カ月毎に急変時の対応について勉強会を行い、実際の場面で活かせる技術を習得するようにしている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し年2回昼と夜間想定で、利用者と共に避難訓練を実施している。また、3カ月毎に事業所内で防災について勉強会を行い、災害時に備え適切な判断・処置ができるよう訓練している。地域住民には、具体的協力体制の確認までは至っていない為、併設施設との協力体制をとった。

高齢者グループホームプレスマン(花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自分らしさを尊重し、さりげない対応や声掛けを心掛けている。記録などによる個人情報への漏洩がないよう注意し、取り組んでいる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が選択できる場面作りとして、お茶タイム時のおやつをそれぞれ選べるよう、買い物支援をしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れの中で、利用者一人ひとりの体調をみながら、それぞれのペースに合った過ごし方ができるよう支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、洗顔(洗顔できない方は、おしぼりで拭く)整髪を行い、更衣は本人の希望で決めており、支援の必要時介助している。外部事業者に入ってもらい、本人の好みにできるよう援助している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれができることを共に行い、食事は、利用者・職員が同じ物を一緒に食べて楽しい雰囲気での食事を心掛けている。月1度の手作り夕食はアンケートを取り、利用者のリクエストするメニューを手作りしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとり食事や水分の摂取状況を記録し、全職員が把握するよう情報を共有し支援している。主治医や栄養士との連携を密に行い、利用者の体重増減に注意をし、栄養補助食品等の使用も行っている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、利用者一人ひとりの力に応じて、見守りや介助を行っている。就寝前は義歯洗浄を行っている。

高齢者グループホームプレスマン(花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムやサインを把握する為、チェック表を作り使用することで、トイレ誘導と声掛けをしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時は、薬での調整だけでなく、水分量に気を配ったり、腹部マッサージや運動などもしてもらう等、自然排泄ができるよう取り組んでいる。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望する入浴に近づけ、職員の都合で入浴が左右されないように努め、取り組んでいる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体状況に合わせて休息を取り入れ、無理なく過ごせるように支援している。安眠できるように、午前中の日光浴を取り入れている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の伝達ファイルを作成し、職員全員が把握できるようにしている。薬剤説明書を個人記録と共に整理し、常に確認を行っている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが役割を持てるように支援し、無理強いすることなく、楽しんで日々を過ごせるよう工夫している。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や利用者の体調に配慮しながら、その日の希望にそって散歩・お買い物・ドライブなどに出掛けている。家族やボランティアの協力を得ながら、幼稚園や小学校の行事などにも参加している。

高齢者グループホームプレスマン(花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族・利用者と話し合い、お金を預かっている。買い物時は、本人が欲しい物を選んで自分で支払いできるように支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望した時は、いつでも電話や手紙でのやり取りができるようにしている。毎年、希望に応じて年賀状を出せるよう支援している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には利用者が生けた季節の花を飾り、壁には利用者手作りの作品を飾っている。排泄物の匂いは、特に注意をし、換気を充分行っている。台所では、味噌汁の匂い、洗い物の音など家庭的な雰囲気が感じられるよう工夫している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方が自室で過ごしたり、ホールはフローリングと畳とに分かれており、利用者が好きな場所でくつろげるように工夫されている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は毎月、手作りしているカレンダーや家族写真、ボランティアと作った作品などを利用者が思うように飾るなど、その人らしく居心地よく過ごせるよう工夫している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印は、車いすの利用者にもわかるような高さに表示するなど、一人ひとりの状況に合わせた環境づくりを行っている。また、活動時、危険がないか常に確認している。